

学習指導案の形式（例） 小学校算数科

第○学年○組 算数科 学習指導案

令和○年○月○日（○）第○校時 ○○教室 指導者 ○○ ○○

1 単元名 ○○○○○○○○

◇まとまりをもった教育内容の単位の名称を書く。

2 単元の目標

- (1) 「知識及び技能」に関する目標（例：～できる。）
- (2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する目標（例：～できる。）
- (3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標（例：～しようとする。）

◇学習指導要領で示された目標及び内容を踏まえて設定する。
◇児童の立場で書く。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①例：～している。～できる。 ② ③	①例：～している。 ②	①例：～している。 ②

- ◇「知識・技能」は、基本的に当該内容のまとまりで育成を目指す資質・能力に該当する指導事項について、育成したい資質・能力に照らして、「知識及び技能」で示された内容を基に、その文末を「～している。」「～できる。」として、評価規準を作成する。
- ◇「思考・判断・表現」は、基本的に当該内容のまとまりで育成を目指す資質・能力に該当する指導事項について、育成したい資質・能力に照らして、「思考力、判断力、表現力等」で示された内容を基に、その文末を「～している。」として、評価規準を作成する。
- ◇「主体的に学習に取り組む態度」は、当該学年目標の(3)の主体的に学習に取り組む態度の「観点の趣旨」を基に、指導事項を踏まえて、その文末を「～している。」として、評価規準を作成する。

4 指導と評価の計画（全○時間）

次	時	ねらい・学習活動	評価規準及び評価方法				
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
一	1	◇「3 単元の評価規準」の観点と一致させ、番号でつなげて書く。 ◇「・」は指導に生かす評価「○」は記録に残す評価の機会を示している。 ◇指導に生かす評価は、主に「努力を要する」児童を確認し、教師の指導改善と児童の学習改善を図る。 ◇観点に応じて適切な評価方法を選択する。授業後に机間指導で活動の様子や発言内容、ノートの記述を把握する等が考えられる。	・知①（ノートの記述）	・思①（行動観察、ノートの記述）	・態①（行動観察、ノートの記述）		
	2						
	3		・知②（ノートの記述）	○思①（行動観察、ノートの記述）			
	4						
	5						
二		・知②（ノートの記述）	・思②（行動観察、ノート）	○態①（行動観察、ノートの記述）			
					・知①②③（ノートの記述）		
							○態②（ノートの記述）

5 指導上の立場

- 単元観
- 児童観
- 指導観
- 研究主題との関連
- 全国及び県学力・学習状況調査との関連

◇指導者の立場で書く。

- ◇単元観・・・取り上げる単元の内容、既習事項との関連、今後の展開、その単元を取り上げる意義、単元・教材と児童の関係等を書く。
- ◇児童観・・・児童の算数科における興味・関心・意欲、単元に関する知識・技能、既習事項の定着度など、前単元までの実態や本単元で育てたい望ましい児童像について書く。
- ◇指導観・・・指導・支援の力点、学習形態、仮説、その他の配慮事項等、児童のよさや可能性を生かすような工夫や手だてを書く。
- ◇研究主題との関連・・・研究主題の説明を簡潔に記述し、研究主題と授業における指導方法の工夫等との関連等を書く。
- ◇全国・県学力調査との関連・・・現状と課題、課題についての取組を書く。

6 本時案（第○次第○時）

(1) 本時の目標

例：～することができる。

- ◇「2 単元の目標」「4 指導と評価の計画」との整合を図る。
- ◇本時の評価規準との整合を図る。
- ◇児童の立場で書く。

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
<p>1</p> <p>◇児童の立場で書く。</p>	<p>○</p> <p>◇指導者の立場で書く。</p>	<p>◇児童の立場で書く。</p>
<p>2</p> <p>(1)</p> <p>◇活動に順序がある場合は、(1)(2)で書く。</p> <p>(2)</p> <p>例：～について話し合う。</p> <p>◇導入・展開・終末の学習過程に沿って、児童の学習活動を具体的に書く。</p> <p>◇授業展開については、「岡山型学習指導のスタンダード（授業5）」を参考にする。</p>	<p>めあて</p> <p>◇児童の目的意識のまとまりを踏まえて、何をどのように学ぶのかを明確にして本時のめあてを書く。</p> <p>○例：～することで、～できるようにする。</p> <p>◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に学習を進めるための手だて ・児童が対話的に学習を進めるための手だて ・児童が学習を深めるための手だて ・児童一人一人の学習状況に応じた手だて ・予想される児童の反応 ・資料提示のタイミングや方法 ・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物 等 <p>◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。</p> <p>◇「努力を要する」状況（C）と判断される児童への手だてを書く。</p>	<p>◇本時の目標と整合した評価規準を具体的に書く。抽象的な文言ではなく、実際に評価可能なレベルまで具体化する。</p> <p>◇評価の場面は1、2箇所に絞る。</p> <p>◇評価規準に合わせて、評価の観点を明記する。</p> <p>◇評価方法を具体的に書く。</p> <p>○例：～している。 [評価の観点] (評価方法)</p>
<p>3</p>	<p>まとめ</p> <p>◇本時に何を学んだのかが分かるように整理し、本時のめあてと対応したまとめを書く。</p>	<p>◇評価方法の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ノート、ワークシートの記述 等
<p>4</p>	<p>◇学習の成果が自覚できる振り返りの視点を明確にして書く。振り返りの視点は、『岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善「一歩先へ！」』を参考にする。</p>	
<p>5</p>		

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する児童の姿 例：～している。

- ◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう児童の姿について、想定される児童の発言や記述例等を取り入れながら具体的に書く。なお、ここに挙げる具体的な児童の姿が、どのような指導によって表れるのか等、指導と評価のつながりを意識して書く。